

# ソフトウェア再利用の新思想 「プロダクトライン」への招待

ES-Kyushu／プロダクトライン推進部会・プロダクトライン普及セミナー in 大分

日時	平成 21 年 10 月 29 日(木) 10:00～16:00
会場	(財)大分県産業創造機構・ソフィアホール(ホール会議室 A)

この数年、ソフトウェア再利用の方法論として「ソフトウェアプロダクトライン」という言葉が聞かれるようになってきました。自社の業務分野の製品を継続して開発していると、顧客の違いや機能追加の連続によって自社製品に相当のバリエーションが生じます。やがては自社製品群の姿を見失って無駄な重複開発を行ったり、ソフトウェア構造の崩壊によってさらなる機能追加や品質保証が難しくなったりしがちです。ソフトウェアプロダクトラインは、自社製品群を鳥瞰し、自社製品群の「ちがい」を明確に捉え、自社製品群を包括する「つくり」を定め、ソフトウェア資産の大域的再利用を図る開発思想です。本セミナーは、ソフトウェアプロダクトラインの普及を目的に、同一内容のセミナーを大分、長崎、宮崎の3県で開催し、ソフトウェアプロダクトラインの基本的な考え方と方法論について紹介します。

## プログラム

10:00～11:30

### プロダクトライン開発の考え方

講師：中西 恒夫(九州大学・准教授)

プロダクトラインソフトウェア工学の基本的な考え方を解説します。特に、製品の「ちがい」を見える化する相違性モデリング、さらに相違性モデルに基づいてプロダクトラインの「つくり」、すなわち製品間で共有されるソフトウェアアーキテクチャを導くプロダクトライン開発方法論について解説します。

12:45～14:15

### プロダクトライン要求定義「スコーピング」とアーキテクチャ：ビジネスとアーキテクチャの密接な関わり

講師：山崎 進(北九州市立大学・講師)

企業でのシステム・ソフトウェア開発を抜本的に改善するためには、開発そのものだけを見るのでは不十分です。開発の入力はマーケティングなどのビジネス活動です。そこで、プロダクトライン開発では、ビジネス要求を確実に捉え、アーキテクチャやプロセス、組織を全体最適化します。本講演では文献を適宜紹介しながら、ビジネスとアーキテクチャの密接な関係について解説します。

14:30～16:00

### 自動生成的プロダクトライン手法

講師：久住 憲嗣(九州大学・准教授)

ソフトウェアプロダクトラインに属する各製品のソフトウェアの一部分を自動生成する方法論について事例を含めて解説します。本手法では製品分野(ドメイン)に特化した製品ごとの「ちがい」を表現するためのモデリング言語を定義します。そして、製品ごとの「ちがい」をモデリング言語で記述し、製品ごとに異なる成果物とその記述に従って自動的に生成することで工数削減を図ります。

主催 九州地域イノベーションパートナーシップ  
(ITパートナー事務局:九州先端科学技術研究所(ISIT))  
九州経済産業局委託事業

協賛 九州地域組込みシステム協議会(ES-Kyushu)  
NPO 法人九州ソフトウェアコンソーシアム(QUEST)

# 参加お申込み

ES-Kyushu／プロダクトライン推進部会・プロダクトライン普及セミナー in 大分

平成 21 年 10 月 21 日（水）17:00 までに、下記の「参加申込みフォーム」を埋め IT パートナー事務局宛に FAX または電子メールでお申し込みください。

FAX 宛先 092-852-3455

電子メール宛先 it-partner@isit.or.jp

## 参加申込みフォーム(大分会場)

お名前	
役職	
所属	
住所	
電話	
E-mail	
参加会場	大分

※上記の個人情報は本セミナーの管理運営以外の目的には使用いたしません。

### ■お問い合わせ先

IT パートナー事務局((財)九州先端科学技術研究所内) [担当: 犬塚]

Phone: 092-852-3460 / Fax: 092-852-3455

E-mail: it-partner@isit.or.jp

**今後のセミナー開催予定:** 同一内容のセミナーを平成 21 年 11 月 27 日（金）に長崎県内にて、平成 21 年 12 月 18 日（金）に宮崎県内にて開催する予定です。詳細は九州プロダクトライン推進部会 Web ページ, <http://es-kyushu.jp/qpl/> をご覧ください。